

インターバンクの声（2016年3月15日）

週明けの海外市場は、日銀の金融政策決定会合と米連邦準備制度理事会（FRB）の連邦公開市場委員会（FOMC）を控え、ドル円が113円50銭から90銭の狭いレンジ内取引に留まり、ユーロも1.10ドル台後半から1.11ドル台前半のレンジ内での取引が続いた。米主要経済指標の発表もなく、原油先物価格も上昇が止まったものの大幅反落しているわけでもなく、ニューヨーク株式市場もダウ、S&P500、ナスダックも終値ベースで前週末比とほとんど変わらずだった。市場レポートの中には、先週の欧州中央銀行（ECB）のドラギ総裁発言後に買われたユーロに利益確定の売りが広がったとの記事も見受けられるが、昨夜の動きだけを見れば50ポイント程度の下落に過ぎない。一部には日銀の追加緩和への期待もあるが、政策変更なしとの見方が大勢で、FOMCについても経済情勢に対する認識の修正がどの程度になるのかが中心だ。少し長い時間で区切れれば、日本時間の木曜日未明、イエレン議長の会見まで相場に大きな変化はないかも知れないが、取り敢えず今日についても市場が動き出すのは昼過ぎの日銀会合の結果が出てからになりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。